

中国内陸農村訪問調査報告（2）

内山雅生 三谷 孝 祁 建民

The Report of House-to-House Investigation in Rural Community of Inland China (2)

Uchiyama Masao, Mitani Takashi, Qi Jianmin

概 要

本稿は、2010年8月と12月の二回に筆者をはじめとする中国農村研究者が中国山西省P県N郷D村と四社五村で実施した聞き取り調査の報告書の一部である。老農民・幹部経験者・村落婦人・農村教師・農民企業家など農村の諸階層から聞き取り調査を行い、1940年前後を起点とする70年間の農村変革の歴史的過程を追跡した。その際に、農民との質問応答録を原則としてそのまま収録することによって、村落社会の多様な面に照明を当て、村民の視点に立った家族史・村落史の再構成を目指した。

キーワード：中国内陸農村，個人史，家族関係，水利史

2010年8月と12月の二回にわけて、筆者をはじめとする中国農村研究者は2009年12月に引き続き、中国山西省P県N郷D村で聞き取り調査を実施した。また、8月の訪問は、D村の他に、四社五村と呼ばれる地域の民間生活用水組織及び地方政府の水利行政機関を訪問した。四社五村は明代から、1950～70年代の集団化を経て、今もその生活用水（湧き水）の水権により、国家水利機関の管理・介入に抗して、自立的な運用を保っている。

以上の訪問調査は山西大学中国社会史研究センターの協力を得て、日中両国の共同研究として実施した。日本側の参加者は内山雅生（宇都宮大学教授・代表）、故三谷孝（一橋大学名誉教授）、弁納オー（金沢大学教授）、田中比呂志（学芸大学教授）、小島泰雄（京都大学教授）、首藤明和（兵庫教育大学准教授）、河野正（東京大学大学院）と祁建民である。山西大学側の参加者は行龍（同教授，副学長，中国社会史研究センター長），郝平

（同副教授，中国社会史研究センター副所長）及び同研究員の常利兵、李嘎、馬維強及び通訳の毛来靈、孫登州、趙冬玉、さらに大学院生の張永平、郝雨娟、李保燕、高維娜である。また、華東師範大学副教授の張文明は今回の調査の一部にも参加した。なお、本稿でも『中国内陸農村訪問調査報告（1）』と同様に、プライバシーの保護に配慮して村民の実名の表記は極力避けるようにした。弁納、田中、小島、首藤及び山西大学のメンバーの調査記録は他の刊行物で掲載予定である。

このプロジェクトは、2010年より5年間の予定で開始された、平成22年度基盤研究（A）（海外学術調査）「近現代中国農村における環境ガバナンスと伝統社会に関する史的研

一、2010年8月山西省P県D村調査

WBG(一回目)

訪問日時: 8月18日午後

訪問者: 行龍・祁・内山

訪問場所: WBG自宅

第3小隊の隊長を30年間勤めた老人。マージャンしているところを呼び出し、自宅の庭にてインタビュー。途中まで家族が物珍しそうに囲むが、記憶力はよい。インタビュー終了後、行龍先生が自分の携帯から山東省の娘さんに電話し、両親の声を聞かせる。

年齢 = 66歳、酉年(1954年生まれというが、1944年の間違いであろう)

両親 = 父はWBD、母はZFY。父はこの村の出身、母は東遊駕村人。

家族 = 妻は、YXQ、61歳、寅年。長女WHZは、39歳、子年、南政村に嫁ぐ。長男WRは、37歳、寅年、平遥県城で運送業。次男WXは、36歳、兔年、本村で農業。次女WSZは、34歳、辰年、山西大学を卒業後、蘭州大学大学院を修了し、現在山東省の日照県の大学の教師。三男WLは、32歳、酉年、本村で農業に従事。

学校 = 9歳の時から6年間、村の小学校に通学。父のWBDは、解放前に平遥県に設立された靴下工場に、180元の株を借金して購入し就職したが、そのために資本家として認定されていた。従って1978年の名誉回復時まで兄弟(後述)ともども、入党できなかった。1979年に副村長になる時に入党申請し、父の歴史が明らかになった。

1964年から第3小隊長を93年までの30年間務めた。前任者は、WLJ、四清運動時に、第3小隊の事務室(現在の教会)で批判され、参加者全員の挙手により、自分が新たな小隊長として選出された。当時の第3小隊は、80世帯、200人から300人。18歳以上の男女の70~80%が参加した。

兄弟 = 長兄は、WBH、寅年、故人。紡績工場の会計。妻は、LYY、第9小隊の会計だった。

次兄は、WBF、辰年、第3小隊の農民。妻は、WTW。

本人は三男。

次弟(四男)は、WBL、寅年、平遥の配件工場の労働者。妻は、WCX、南政村の校長。

末弟(五男)は、WBS、巳年、第3小隊の農民。妻のLMQは南新堡村の出身。

四清運動 = 18人の工作隊員が来村した。隊長は、靈石県の副県長の潘玉林。当時の村の幹部全員が批判された。幹部は「冬天罪人、春天忙人」と呼ばれた。一番厳しく批判されたのは、WXHで、汚職とともに、階級異己分子として富農のWFと付き合っていたことが問題とされ、党籍を剥奪された。WXHは1967年に名誉回復された。

村の会計のZWZは副業を批判された。汚職も事実だったので、名誉回復はされなかった。

文革 = この村には総司令部(WHがリーダー)と連絡站(WXNがリーダー)の2つの紅衛兵の組織があったが、村内では武力闘争はなかった。県城での闘争に駆り出されていた。生産隊長としては紅衛兵を恐れてはいない。村の中でふらふらしている者が文革に参加した。

水利 = 集団化時代には、毎年水利工事に動員された。幹渠は汾河から第2ダムまで水を引き、幅6メートル。幅2メートルの閘渠からこの村に引き入れ、幅1.5メートルの農渠、幅1メートルの溝渠から畑につなげる配套工事。灌漑用ではなく、大雨時の排水が主目的。

また、沙河治理といって、畑のアルカリ土と路地の土と一緒に塩池に入れて足でよく混ぜ、上から水をかけ、壺に集めて工場に24時間煮詰め、上部の黒い水は肥料とし、下に沈殿した塩を食べた。各生産隊には塩の工場があった。出来上がった塩は、1斤0.1元で県の供銷社に売り、漬物用の塩とされた。平遥の焼き肉には、地元の塩を使ったものだ。

TYC

訪問日時：8月19日午前

訪問者：祁・内山

訪問場所：TYC自宅

第8小隊の隊長を勤めた老人。今回の4人の道案内人の一人。インタビューでは他人が入らず、3人だけだったので、本音を聞いた感じがする。子どもの名前や年齢については正確には覚えていない。

年齢 = 71歳，辰年，1940年生まれ。

両親 = 父はTHY，十数年前に86歳で死亡。

5畝の土地を持ち，貧農。土地改革時は，11畝の土地を保有。母は田H氏，西遊駕村人。80歳で死亡。

妻 = HRL，61歳，林泉村出身。

子ども = 長女TXH，戌年，41歳，平遥県城で化粧品店を経営。長男TXG，子年，38歳，妻とともに晋劇団に参加しているが，最近は村に戻って，結婚式や葬式で太鼓をたたいている。次女TXP，寅年，30歳？本村で夫と共に農業に従事。三女TXR，巳年，太原の美容院に勤務。次男TXM，未年，農業，一緒に居住。

学校 = 家が貧しかったので 春や夏は労働し，冬期に小学校に3年間通学した。兄弟は6人であったが，自分が長男であったため，農業に従事した。

集団化 = 当時参加した互助組（建設社）のリーダーは，HZF。70～80人が参加。1，2年で初級合作社になる。1957年に高級合作社となり，社長はHLY。当時の書記長はWXH，大隊長はTKY。

WXHについて = WXHは，地主のWFとの関係から批判された。「階級界限不清」で，困難期にWFから食糧を分けてもらっていた。WFは，解放前に太原でアヘンを売買して，財をなしていた本村時人で，解放後も他の人よりも豊かな生活をしていた。娘は他村に嫁に行ったが，息子のWYSは太原で商売をし

ている。困難時期にこの村への移民はない。改革開放後は山岳地域に住んでいた人々が県城に移り住んでいることもある。WXHは名誉回復していないし，復職もしていない。WXHは50年代に早い時期に入党しており，独断専行だった。

WXHの後任のDCFについて = DCFは結婚して，文水県の南斉村から来た。初級中学卒業という学歴を持っていたので3年間書記を担当した。彼女の書記の選出については具体的なことは分からない。

入隊 = 1960年に兄弟6人いたが，食べるものがないので，自分が解放軍に入隊した。配属された軍隊は武清県に駐屯していた。解放軍で入党したので，幹部に抜擢されると村に戻れなくなるので，66年に除隊して，帰村した。小隊長 = 1966年に帰村して第8小隊の政治隊長となり，1977年に生産隊長となった。当時の書記はDCF，大隊長はWZXだった。

WZXとJSLについて = WZXは威信が高い人だった。DCFは1，2年間，書記だったが，本村人でもないのので，選挙でやめ，夫と共に平遥県城に移り住んだ。後任のWXRは20年間も書記を担当した能力のある人で，支部メンバーを強く団結させた。その後，JSLが主任，Wが副主任となったが，Jの威信は王に比べて低く，1，2期で自分から辞めた。精神不安定を起こしていた。

政治隊長 = 主に思想工作を担当した。生産隊長に協力して，隊務会議に参加した。メンバーは，生産隊長と政治隊長の他に，民兵排長，生産副隊長，婦女隊長だった。社員大会では，各自の労働点数を協議した。また会議では，政治隊長が人民日報や毛沢東語録などの文献を読んだ。自分は人民解放軍に参群していた時に，独学で字を覚えた。

水利 = 冬に溝渠の土砂を掘ったり，土地を平らにした。アルカリ度の改良もした。アルカリ度の土地と路地の土地を混ぜて，池に中に入れ，水を加えて大きな鍋で煮詰めた。二種の土地を混ぜる理由はわからない。解放前から，南部の1隊から5隊では，山西省人が多

く、農業技術は低かった。北部の6隊から10隊では塩の製造をしていた。解放前に、八路軍の根拠地の徐家鎮の人が、日本軍の封鎖線を突破して、塩を買い付けに来た。

日中戦争中 = 昼間は日本軍や、偽軍（閩錫山軍）が来たが、夜になると八路軍が来た。適当に対応するしかなかった。偽軍は、各家のカンをたたき、食糧がないか調べていた。食糧や家具などを奪っていた。

文革 = 紅衛兵の組織は、総司令部（WHがリーダー）と連絡站（WXNがリーダー）だった。WHは造反派で村の貧農協会主任だった。郷の水利管理委員をしていた。1期だけ書記を担当したが、就任時に示した五条目標はなんにも実現されなかった。現在84歳で在村している。郷の水利管理委員をしていたので、毎月1,400元をもらっている。上級機関の人とつながっている。

書記 = WHの後任はWYLで、私心がなく人望があった。実家の村で婦女連隊長をしていたので、書記に選出された。自分はその時副書記だった。

LTW

訪問日時：8月19日午後

訪問者：祁・内山

訪問場所：LTW自宅

脳溢血の後遺症で右手が不自由。初めは積極的に応答していたが、妻の一言により口が堅くなる。

年齢 = 66歳，酉年。

両親 = 父はLJF，14歳の時に死亡，土地改革時に6，7畝を手に入れる貧農。母はQXL，洪善村出身，20数年前に死亡。

妻 = HJX，64歳，南梁村出身。体調不良。

子ども = 長男LHL，44歳，未年，本村で農業。長女LHP，43歳，申年，本村の農家に婚家。次女LHL，40歳，亥年，南政村に婚家。次男LHG，38歳，丑年，孝義県の炭鉱

に勤務。三男LHD，34歳，卯年，農業およびトラクターによる運輸業。

学歴 = 小学校に2年間通学したが、父の死亡時に退学した。

その後から現在まで = 14，5歳時に第8生産隊に入る。四清運動時から民兵隊長を4年間担当。その後第8生産隊長に5年間従事し、生産大隊の養豚場の政治指導委員を3年間務め、1991年9月までの10年間、大隊長。その後は普通の社員。

民兵隊長 = 毎日労働時間開始前に、第8隊の若者を民兵として訓練した。銃は大隊が保管していた。村で批判された幹部を劇場の裏まで連行し、一部の者は県の施設に送った。民兵は一つの生産隊に一つの班を構成していた。8班で、各班20～30人、全村で200人～300人。自分は若いし、貧農出身で、積極分子だったから隊長となった。

四清運動の工作隊 = 地区の人が担当していた。愉次の人もいた。劉課長が隊長だった。数十名いた。困難時に200人の餓死者が出た。しかし村の人が働いている時でも、幹部は食事をしていたので、批判された。一番批判されたのは、WXRだ。彼は治保主任だったので、厳しく村民を取り締まっていた。殴られた者もいたので、批判されたのだ（奥から妻の余計なことを言うなという声がしてから口ごもるようになる）。

生産隊幹部の仕事 = 毎朝会議。5，6日に1回に割りで、労働点数の評価をした。トラブルはあったが、表には出さず、後で悪口を言った。

養豚場の政治委員 = 春雨工場から出る残飯を餌として養豚した。よく会議があった。政治学習では、人民日報などの文献を読んだ。自分は読めないで、中学生に読ませた。

大隊長について = 前任者はWZX，後任は現書記のLRX。（前任者の確認をするJSLが2年後に自分でやめた。TWYは3年間ぐらいでやめた。

副業 = 長男は以前大豆を購入し自宅の庭の油坊で数万斤の生産をしたが、市場価格が変わ

りやめた。現在は運輸業だけ。
（以後体調不良につきインタビューを終了する）

WSQ・WSJ兄弟

訪問日時：8月21日午後
訪問者：祁・内山
訪問場所：WSQ自宅

降雨のためMWBさんに廟近くの家に案内されたが、留守のため、昼寝中のWSQ宅に行く。途中からWSJさんもついてくる。兄弟ともに耳が遠く、祁が耳の近くで質問する。今年に7月に張永平さんが訪問したという。

83歳、辰年。

両親 = 父はWZ，中農，15.8畝の土地を所有していた。母はBYX，県城南門街（9街）の人。

兄弟 = 自分は長男，次弟（次男）はWSJ，81歳。末弟（三男）はWSB，労働者。

家族 = 妻，LGR，本村人，故人。長女はWHE，57歳，劉家庄に嫁ぐ。長男は，WJP，42歳，子年，鋼鉄工場勤務。次女はWCH，卯年，本村に嫁ぐ。三女はWYH，午年，宝頭で晋劇団に参加。次男はWJX，子年，同居，泥匠。

小学校卒業後 = 小学校に3年通学，16歳で太原の東興靴店に働きに行ったが，1952年に帰村した。

地主 = WHX，WZZ，WDL，LXK，LXX。

富農 = WDB，WLG。

銃殺されたのは = WHXと，WLG。WHXは，土地は自分のものだと言って返還を要求したから銃殺された。

集団化 = 互助組の期間は短い。誰と組んだか覚えていない。初級合作社の組長はWH（虎），WH（琥）ではない。高級合作社は紅旗社。

困難期 = 第5生産隊の隊長をしていた。1人で250斤しかもらえず，トウモロコシを盗む者がいたが，黙認した。

幹部 = 当時の社長は，TKY，書記はWXHだった。TKYは外村から来た人で独身だった。年寄りになって結婚したが間もなくして死んだ。WXHは供銷社で働いていたが，高級合作社ができた時に帰村した。理由はよくわからないが，問題が起きて免職した。WFは太原でアヘン売買をしていた。村で地主に区分されたが，WXHはWFの階級を低く区分した。DCFはしばらく書記をしていた。その後WXRが長い間書記をしていた。治保主任の時に人を殴ったことはない。WZXは初級合作社の時代から幹部となっていた。高級合作社の時代には，WZXが主任で，JSLが副主任だった。

護秋 = 集団化時代には，村に7，8人の保衛がいた。民兵ではない。自分は民兵の副営長をした。時々洪善での会議に参加した。

民兵 = 営長はWYG。民兵名簿はあるがよく覚えていない。

四清 = 工作隊が来た。一つの生産隊に1人が2人が配属された。どこから来たかわからない。隊長は靈石の人だ。批判されたのはWXH。他にTKY，理由は分からない。

文革 = 紅衛兵だった。総司令部に属していた。理由は分からない。初級と高級合作社では王虎がリーダーだった。WHとは小学校からの級友だった。

弟の王守潔の回答

家族 = 妻はLKZ，平遥南堡の人。子どもは，長女WLE，55歳，臨汾にいる。長男WJM，戌年，51、2歳，農業。次女WLF，49歳，本村に居住。次男WJZ，43、4歳。

解放前，太原の味の素の工場に働いていた。1956年に公私合営となった元味の素の工場に，定年まで運輸関係の仕事をしていた。太原には単身赴任していた。20年前に村に戻ってきた。

WCR

訪問日時：8月22日午前

訪問者：祁・内山

訪問場所：WCR自宅

WHさんにインタビューしようと自宅に出かけるが、王家庄に出かけていたため、WCRさんへの急の訪問となった。体調悪く短時間のインタビューであったが、同行したMWBさんがしばしば口をはさむことが多かった。

81歳，午年。

両親 = 父はWPX，30畝の土地を持つ下中農。母はLPY，閩良庄の人。

兄弟 = 本人は長男，次弟（次男）WCF，供销社に勤務。妹WAZ，故人，白家庄に住んでいた。

家族 = 妻はLYZ，76歳，亥年，西游駕村の人。長女WGX，56歳，未年，城内に居住。次女WLY，53歳，戌年，南政村に居住。長男WH，49歳，寅年，本村で農業。次男WP，午年，本村で農業。三男WC，42歳，酉年，本村で農業。三女WJX，38歳，子年，南政村に居住。

小学校卒業後 = 初級小学校5，6年，高級小学校を1，2年在学。二戦区の常備兵として汾陽に一年弱滞在，太原に移動中に病気で，1948年に帰村した。解放時には大きな戦いはなかった。

地主 = WLD，WHX，WZZ，LXK（MWBの回答），TJK。

集団化 = 互助組は5，6戸で構成されていた。組長はTSR，隣の家。初級合作社はほぼ全員が参加した。不参加は下中農の毛商人。

（MWBの回答）MWBの祖母は一人で2.5畝の土地を耕作していた。入社したら食糧生産が上から命令されると言って1958年まで入社しなかった。

統計係 = 1959年から担当した。統計の仕事は，人民公社に社員の出勤状況や，綿花やトウモ

ロコシの収穫高を報告した。会計は帳簿に記入するが，統計は上部に報告するのが任務。

（本人の病状を心配した奥さんの指示でインタビューを中止する）

WH

訪問日時：8月22日午後

訪問者：祁・内山

訪問場所：WH自宅

昼寝をしていたが，インタビューに応じてくれた。案内してくれたMWBさんも戻ったので，3人だけのインタビューとなった。小島・張グループが既に訪問していたので，水利関係中心に話を聞いた。

水利幹部 = 1966年に人民公社の頭渠の頭長という水利委員になった。王家庄人民公社の15、6の頭渠を管理していた。村の幹部時代から村民に水利工事を指導していた。一番大きな仕事は，県の工事として村民十数人を連れて，ここから15.6里離れた尹回ダムの建設に参加したこと。

村の幹部 = 副書記兼治保主任。幹部の中で若かく，外の人との付き合いがあったので，頭長になった。1956年から1960年まで。60年から66年までは普通の農民。66年から人民公社の水利委員。58年の大躍進時期に左派の誤りがあったので，60年にやめた。1958年に汾河東灌区が成立し，水利を管理していたが，第3支渠の下に頭渠になり，66年から75年まで勤めた。

文革中の水利 = 汾河の水を，沙河を越えて村に通した。「過水渡漕」といった。さらに毎年「清於」といって渠にたまった泥を取り除いた。

渠の区別 = 頭渠，農渠，溝渠の別があった。頭渠は幅1メートル，深さ1.8メートル。農渠や溝渠の大きさには規定はない。渠は土を掘り起こしただけでレンガやコンクリートで補強することはない。コストが高いからだ。

従ってよく崩れた。1秒間に1立方メートル以上の水が流れると崩れた。

水争い=昔の老人に聞いた話では、汾河の水を争ったことがあるようだ。人民公社時代でも、頭渠の上流は王家庄で、道備村は下流だった。夜に王家庄の人が水を盗んでも幹部は黙認していた。改革開放後には水利管理組織は無くなり、頭渠は壊された。王家庄までは灌漑できるが、この村までは灌漑できない。今春は沙河の南側の土地では、灌漑するために第3支渠の管理機関に金を支払わなければならなかった。

アルカリ土=1970年に沙河の底を深く掘り、地下の水に地表の水が混ざりこみ、アルカリ性が改善された。しかし、その後沙河の川底は高くなり、排水ができないので、アルカリ性は深刻な状態だった。現在では改善された。アルカリ土から塩を作ることはない。王家庄では沙河のダムの水や汾河の水を利用して灌漑している。

水質=祁県の工場の排水が混ざった水を村民は利用している。農民はよくないことは知っているが、干ばつで仕方なく利用している。

幹部の対応=村の幹部は水利に関心がない。土地も農民のものだったので、統一的な水利の再建ができない。改革開放で、農民は自由な生産ができるようになった。昔は統制されていた。しかし現在では問題が起きている。昔は排水施設があったが、排水施設まで自分の土地として土を高く盛ったので、道路が低くなり水がたまるようになった。幹部によれば、村から郷に金を預けたというが何も改善されていない。侯郭村では村民による幹部の不正に対する告訴により村長が逮捕された。村の土地300畝の売却金を着服したというので告訴されると、村長は50万円を返還すると言ったが、村民たちは納得しなかった。

文革=この村に造反派はいなかった。二つの派閥に分かれたといっても武闘はしていない（答えたくない様子）

四清運動=WXHが批判された。土地改革の時にある人の階級区分を変えたので、四清

運動の時に他の人から告発された（やはり答えたくない様子）

治保主任=治保委員は5人。夏秋に農作物の盗難防止、冬には水利施設の管理。泥棒は、トウモロコシを1個盗んだ時は、5倍の罰金を払わなければならない。村民が畑の中でトウモロコシを食べると、剥いた皮を元に戻して見つからないようにした。

TKYはよくウソの報告をした。10万斤の収穫は50万斤とされ、後で多くの食糧を上納しなければならなかった。その結果多くの餓死者が出た。餓死者は病気で死んだかわからないが、足がはれていた。

肥料の販売=この地域では農民はあまり化学肥料を使用しなかったので安かった。運城では高く売れると知って、化学肥料を安く買って、運城に運んで小麦と交換した。

給与=1975年までは水利委員の給与は労働点数と計算されたが、それ以後は県の水利管理委員として給料をもらうようになった。88年に60歳で定年したが、その時には退職金はない。その後4年間村の書記をしたが、2002年に退職手続きが完了した。

GCY（一回目）

訪問日時：2010年8月18日午後

訪問者：三谷孝・張文明

通訳：趙冬玉

訪問場所：GCY自宅

家族=奥さんは1973年になくなった。父親：GHZ，黄相峪（音）で人にご飯を作った、料理人。母親の状況は覚えていない。一人のお兄さんがあり、太原で医者をして、病気で亡くなった。息子5人。長男：GWZ，54歳，平遥県少年管教所管教幹部。次男：GWQ，49歳，介休市市長。三男：GWX，亡くなった（年齢は覚えていない）平遥で泥瓦匠の仕事をした。GCYは一人で三男の妻の家で一日三食を食べる。四男：GWM，（年齢はよく覚えていない），祁県勝江管教所 刑務所

の警察。五男：GWY，40歳ぐらい（よく覚えていない），石家で仕事をしている（具体的な仕事は教えていない）。娘3人。長女：候郭村，亡くなった，年齢は教えていない。次女：GWR，51歳，猪年生まれ，岳連村で農業に従事する。三女：GWF，38歳，鼠生まれ，介休で野菜を売ることをする。（注：三男と長女はもう亡くなったので，年齢は教えなかった - 多分それを避けたいと思う。そのほか，妻は早くなくなったので，四男の年齢は覚えていない。）

祖先について = 覚えていない。祖父のところからこの村で生活している。1958年に家譜は焼けられた。

自分の教育状況について = 学校に通ったことはない。自分の名前だけ書ける。

日本の軍隊は平遥での状況 = 当時，日本の軍隊は平遥で駐屯していた。よくお昼に物（食べ物など？）を請求しに村公所へ行く。村民の家に請求しない。道備村で村民の財産を略奪したことはない。殺人もしたことはない。よく子供にキャンディなどをあげた。当時，悪いことをしたのは主に皇協軍と通訳だった。あの人たちは日本語がわかるので，よく悪いことをした。游击隊は主に夜に来た。家にも行ったことがある。日本軍隊が撤退した時間はよく覚えていない。当時は小さすぎた。土地改革について = 階級成分：貧農。割り当てられた土地：16畝（一人に4畝，お兄さんを含める）河南の土地が割り当てられない。（注：肥えている土地）。主に地主と富農が村長をやっていた。（土地改革する前の村長，あるいは地主や富農などが土地を寄付したため，村長をやった？）。劉学昆は当時の村長であった。土地改革期間の大きな政治運動がなかった。土地改革期間に工作組の進駐することはなかった。四清したときに，工作組が進駐し始まった。

中華人民共和国の成立について = この村で中華人民共和国の成立の記念活動に参加した大学生がおり，ほかの村民に教えたため，この村は中華人民共和国の成立することが分かっ

た。

GCY（二回目）

訪問日時：2010年8月19日午前

訪問者：三谷孝・張文明

通訳：趙冬玉

訪問場所：GCY自宅

収入について = 耕作すること，茶の葉を売ること，トイレットペーパーを売ること，年に10万元。

農村の医療保険について = 社会保険に加入し，小さな病気だったら村の衛生所へ行って，大きな病気は人民病院と第二人民病院へ行く。

風水について = 家を建てた時，風水先生に聞いた。この村に風水先生がいないため，平遥県へ風水先生を呼んだ。ただ一冊の本を持って，部屋の高さやドアの幅を決定した。羅針盤などはない。人が亡くなったときも風水先生を呼んで，羅針盤を持って，方向を確認する。農業 = 家族は今20畝あまりの土地を持っている。（政府から1畝に59元を補助する）。主に自分で耕作する - 播種と秋の取り入れは村の播種機とコンバイン機を借り，1畝は約20 - 30元かかる。自分で主に除草する。主にトウモロコシと高粱を植える。村の糧食を買収する人に売る。儲けたお金で小麦粉を買う。家に三輪車、オートバイ、電気自転車それぞれ一台がある。

住宅 = 今住んでいる部屋の建築面積は0.8畝。そのほか，30年前に建てた古い部屋があり，自分で住んでいる。春節のときに，親戚は全部帰った。息子たちは除夜の前に帰って，娘は初二に帰る。全員は住んでいるところがある。

祠堂と廟 = 解放する前にG家の祠堂があり，解放（太原解放）のときに祠堂のドアは担架として使うため壊した。その時，村の廟と多くの祠堂は前線に支援された。解放する前に，廟は五つ，今は二つだけ残った（金堂廟と老

爺廟）。他の三つは解放戦争のときに壊された。金堂廟は道士が住んでいたため壊されていない - 主に雨を祈ることをする。老爺廟は当時村公所として壊されない。

宗教 = キリスト教の信者は知らない。解放する前にカトリックを信仰する人が多い。村でカトリック教会がある。解放した後は少なくなった。今はまた多くなった。

困難時期 = 小隊長をしたことがある。農業生産請負制。三年間の自然災害時に100人以上の人が餓死された。

建物 = 家屋を建てたお金は主に息子からお金だった。農業銀行にローンを貸さなかった。

廟会 = 毎年の四月五日に廟会へ行く。小学校の東に舞台を建てて、劇（晋劇）をやる。専門的な劇団を呼ぶ。主に村のお金持ち（具体的なお金を出すことを分らない）がお金を出して、劇団を村に呼ぶ。約3-4日続ける。

JST

訪問日時：2010年8月19日午後

訪問者：三谷孝・張文明

通訳：趙冬玉

訪問場所：JST自宅

家族 = JST本人は1930年生まれ、80歳、馬年生まれ。妻はZYXは79歳 羊年生まれ。父親：JSX, 商人。義理の母：JYM。実の母の名前はよく覚えていない。兄一人、姉一人、弟一人、妹一人。4人の息子。長男：JYH, 53歳, 村で農業をする。次男：JYH, 51歳, 平遥県で卸売りことをする。三男：JCH, 47歳, 太原鋼鉄会社で販売のことをする。四男：JQH, 43歳, 村で農業をする。娘一人, JCF, 57歳, 南王家庄で農業をする。

履歴 = 1946年, 小学校を卒業し, 銀川の中学校に通った。1951-1953年小学校教師。1954年-1956年平定師範学校で勉強。1957年孝義石相小学校教師。1958年-1964年中学校数学, 物理教師。1964年以降, 孝義県文教局（教育局）教師進修学校。四清のあと公社へ行った

- いくつかの公社で秘書をしたことがある。

日本軍隊について = 日本軍隊はお昼に来たことに対して, 八路軍は夜に来た。日本軍隊は火をつけて, 副村長の家を焼いた。日本軍隊は副村長が八路軍と連絡があることを疑ったから。日本軍隊敗戦後, すぐ太原に戻って, 一部は帰国し, もう一部は閻錫山の軍隊に加入して, 八路軍と戦った。1937年11月に, 日本軍隊は平遥に進撃したあと, 撤退した。1938年正月十四日に, 第二回平遥を占領した。長い占領を始めた。

土地改革について = 階級成分：貧農。ただ11畝の土地があり, 銀川から一頭の口バを持ち帰った。あの口バは主に製粉して, お金を稼ぐ。

互助組について = 1952年, 1953年から互助組が始まった。加入した家庭の数はまちまちである。1954年, 初級社。1956年, 高級社。1958年, 人民公社。

三年自然災害 = 約何十人が餓死された。文化大革命 = 造反派 = 参加した人は教師, 中学生, 農民であった。武戦があったが亡くなった人はいない。紅衛兵は串連に村に来て, 串連した後他の村へ行った。主に「中師派」と「連絡站派」の争い。最後に家譜の写真を撮る。

二, 2010年8月霍州水利局と四社五村調査

張 愛国（霍州市水利局辦公室主任）
安 五達（霍州市水利局總工程師）

訪問日時：8月20日午前

訪問者：調査団全員

訪問場所：霍州市水利局會議室

三回目の訪問で, 毎回丁寧に教えてくれた。

張 愛国：まず, 四社五村の基本状況を紹介したい。四社五村は民間水利組織による水利を管理するモデルである。四つの行政村と五

つの自然村によって構成している。4社は仇池、李庄、義旺、杏溝である。水利管理は28日を一周期とし、5つの文に分けて、5社と1村はそれぞれ1文を所有し、この制度は現在まで続いて変わらない。各社は輪番に1年間水利を管理し、4年一回りで、祭祀儀式によって引渡しを行う。当番の社は毎年清明節以降、水利施設を整備し、水の分配を行う。実はこの水の利用者は4社以外の村もあるが、水の分配は4社のみによって管理している。各社はそれぞれに下流の村に水を配分する。このような管理方式の最大の利点は水の節約になることだ。四社五村は洪洞、霍州二つの県に跨るので、彼らは県を越して、直接に地区へ上告できる。四社五村の中の一部の村は、後で新たに加入したものである。例えば劉家庄は孔澗村から1日の水を得た。その理由は孔澗村の村長の娘が劉家庄に嫁いだ際に、嫁入り道具として、一日の水を贈った。水利管理は法律のようなものがあるが、それは「水利簿」だ。

現在 洪洞側はもうこの水を利用しないが、管理制度は変わらない。毎年祭祀を行う。現在、新たな問題が起きている。近年、国家が飲用水工程を興し、そこに集中供水ステーションを建設した。その水源の一部は四社五村の水で、一部はモーターで汲み上げる井戸の水だ。工事が竣工してから、義旺村の生活用水問題は解決した。しかし、最近の2年以來、村の内部は仲が悪くなり、村民が集中供水ステーションに水道料金を納めなかった。一方で、水が不足した。村の幹部は我々(水利局)を訪ねて昔の四社五村制度を回復しようと要求した。現在の義旺の幹部は洪洞側とも仲が悪い。義旺村が洪洞側の分の水を使っているが、洪洞側が「我々の分は川に流しても、君に送らない」といった。現在、義旺村は三日間の水のみ使用できる。この問題はまだ未解決になっている。

四社五村の財務については、毎年当番の社が、村民からの集金を使って、工事を行った。

財務の管理は厳しく、帳簿がある。経費を浪費することは禁止している。毎年の帳簿を翌年度チェックした後に、焼き払った。その意味は、この帳簿を神様に送った。帳簿を焼き払うことは、一つには、四社五村が全員でこの会計に異議なしということ、もう一つには、この儀式によって、四社五村が一丸となることを物語った。

四社五村の水は自然的に流すことではなく、制度によって規制している。四社五村の水配分原則は、実に不公平の事実に基づいて形成してきた。もし、不平等の水利秩序がなければ、公平の水利原則が成立できない。これは昔から残された水制度で、皆のコンセンサスを得た。この水は15の村を流れているが、9村のみが水利管理権を握っている。これによって水利簿の合法性が決まる。これは水利管理の統一に有利だ。

また、霍州における水に関する伝説もいろいろ存在している。唐の時代、李淵親子が兵を挙げた。その第一回の闘いは霍州で起こったとも語られている。

内山：これから、質疑に入る。

小島：四社五村のような水利組織は霍州の他の地域にもまだあるか。

張：ある。例えば、七里峪灌区だ。この灌区も歴史が長い、灌漑用の組織だ。しかし、その水制度は四社五村のように完全に保存されなかった。類似の水利組織は他もある。七里峪灌区の水管理も厳しい。例えば、水を盗用する人が見つかると、その人の家を打ち壊す。三谷：四社五村では、水利用以外の共同行動があるか。

張：この組織に対して、大きなトラブルが起こらなければ、政府が一般的介入しない。

三谷：例えば、民国の時に、匪賊がやって来た時に、四社五村の間には共同自衛活動があるか。

張：ある。彼らは共同で自治を行っていた。政府は関わらない。

田中：四社五村をめぐる、洪洞と霍州の水利機関の間になにか交流の動きがあったか。

張：あった。彼らはある時、臨汾地区（市）へ陳情に行ったことがあった。

張文明：この水利組織は単独の組織だが、村民委員会と関係があるか。

張：現在は、四社五村の仕事はそれぞれの村民委員会によって責任を負い、社と村民委員会とは一緒だ。

内山：現在、村民が集中供水ステーションへ水道料金を払わない、その理由は何か。

張：理由はいろいろだ。当初、この集中供水ステーションが竣工してから、その責任者はこの村の村長だったので、管理しやすかった。近年、洪洞側が井戸水を使用して、この水を使わない。しかし、その水権は持ち続けている。この村の村長が洪洞と仲良いので、洪洞側が自分の分の水をこの村に譲った。集中供水ステーションはこの村の人から水道料金を徴収しない。他の村から料金を徴収する。1年余り前、この村の幹部が入り替った。集中供水ステーションの長は村長を担当しなかった。彼は、水利管理はお金が掛かり、この前は自分が村長を担当したので、村民に奉仕するが、現在、村民から水道料金を徴収しようとした。しかし、今の村長が納得できない、水道料金を払いたがらない。これによって、給水を停止した。このことをめぐって、トラブルが起こった、殴り合いになった。我々水利局のところにも来た。我々の原則としては、水を利用すれば少なくとも料金を払うべきだ。しかし、今の村長が同意しない。現在、村長がこちらに来て、昔の四社五村の水制度の回復を要求した。しかし、今洪洞側が自分の分の水をこの村に譲らなくなった。我々は郷の幹部と一緒に調停した。我々はお金を払わなければ水を使用できない、すこしでも払うべきだという意見を説明した。現在村の双方も我々のところに相談しに来なかった。我々は郷の幹部と相談して、もし、湧水問題が深刻になると臨時的措置としてすこし給水してもいいといった。

常：現在の祭祀の様子は。

張：祭祀の費用は村から出す。例えば、集中

供水ステーションから数千円を寄付した。現在は昔より簡素化した。清明節前後、四社五村の幹部が集合し、宴会を催し、三日間の演劇をする。昔、集中供水ステーションの長が村長になった時、寄付したことがあった。

常：現在水をめぐるトラブルは幹部の間の対立と関係があるか。

張：もし、集中供水ステーションの長が続いて村長を担当すれば問題が起こらないかもしれない。村長が選挙で退陣した。我々も村の内部の状況がよく分からない。実際、村の中で、続いて集中供水ステーションの水を使用している。

小島：四社五村の新たな水源について。現在井戸水と湧き水と比べてどちらが多いか。

張：一般的に、夏と秋に結氷しない時、湧き水を使用し、冬になって凍った時に、井戸水を使用する。井戸水は電気代と人件費が掛かる。現在の集中供水ステーションは概ね赤字が出る。できるだけ湧き水を使用する。

馬：四社五村の経済状況は如何か、井戸を掘って生活用水を満足できるか。

張：この県の西部は豊かだが、自力で井戸を掘れる。東部は山岳地域で、十数万元で井戸を掘ることができない。村民たちは生活用水状況が切迫すると、こちらに来て求める。彼らは自らから集金することはない。

内山：昔、四社五村は収穫の時、地形の標高が異なるので、互いに小麦の収穫を協力したが、現在如何か。

張：現在生産条件は改善した。機械（コンバイン）を使ってすぐ収穫をし終える。互いに助け合いが必要なくなる。

郝 繼紅（元義旺村書記長）

（陶唐峪郷郷長句彦龍，市水利局張愛国他同席）

訪問日時：8月20日午後

訪問者：調査団全員

訪問場所：義旺村小学校

内山：2年前にこの村を訪問後、何か変化があるか。

郝：今日私は四社五村のこのみ紹介したい。四社五村は千年以上の歴史があり、ずっと継続してきた。この水は四社五村によって管理し、昔と同じで、毎年水路を整備し、各社が輪番で行う。昨年は李庄社が当番し、今年は義旺社が当番する。最近、何か問題が起こったが、ここで言いたくない。現在、水の利用について何か不正常的なことがあっても、四社五村が水の管理を放棄しない。昨年は李庄社が水路の整備を担当した、今年のはわが村が担当する。昔と同じで清明節に会議を催し（做社）、劇を演ずる。特に、今年は事あるので、わざと盛大に行く。大社、小社二回行った。

内山：最近の様子を詳しく教えてほしい。

郝：清明節前に小祭を行うが、参加者が少ない。四社五村の書記長、村長即ち社首10数人のみ参加した。小祭の目的は前年度の仕事を総括し、今年度の仕事に対して割り振りをする。仕事を前年度担当した社より今年度担当する社に引き渡す意味もある。工事と費用をチェックする。四社五村の幹部たちが水源地に行き、実地調査し、工事の予算を見積もる。その後各村で集金をする。小祭の仕事は多い。大祭では、四社五村の幹部の全員が参加し、清明節前に開催し、賑やかにする。工事の費用は水使用の日数に基づいて各村の費用を決める。

現在、仇池社が井戸水を利用し、李庄社も井戸水を利用しても、その水権を放棄しない。その管理権を握っている。長い歴史をもって、この水を利用しなくても、現在の幹部も放棄する勇気がない。もし、放棄すると村民に報告のしようがない、歴史的な犯罪者になる。

昨年、四社五村を無形文化財として申告した、市と地区より上申した、結果はまだ分からない。私は自信をもって四社五村が20年後、200年後も変わらないと信じている。

内山：具体的なことは、例えば、演劇のほうは何か変化があるか。

郝：演劇は昔と同じで、伝統劇（古装戯）だ。演劇は村民のためだけではなく、竜王にもためだ。演劇の料金は昔、1場に1,000円で、現在2,000元になった。一回5場で（一日目1場、二日目と三日目はそれぞれ2場）、あわせて10,000元だ。その他、飲食代もある。近年、毎回20,000元掛かる。このあたりの村はそんなに豊かではなくても、毎年劇を演ずる。この伝統を守っていく。

内山：現代日本では祭に参加する人が減少しつつある。このあたりは？

郝：このあたりでは減少しない。村幹部は皆参加する。

弁納：昔洪洞側と小麦の収穫に助け合いをしたが、現在は如何か。

郝：同じ水を飲むので、自然に仲良くなった。経済、貿易と婚姻面でもよい付き合いだ。他の村と比べて緊密に結びつける。

張：若者はまだ村に残るか。

郝：村の余剰労働力が多い、一部は出稼ぎをしたが、残る者も少なくない。

弁納：この村は郷鎮企業があるか。

郝：ない。

内山：農業用機械では、互いに借りることがあるか。

郝：あったが、昔互いに借りていたが、現在では商売の意識（商品意識）が高まって、借りたら、料金を払わなければならない。

内山：四社五村の間に互いに借りることが多いか。

郝：あまり変わらない。借りたら、お金を払う。同じ水源なので、多少仲良しだ。

内山：社首はずっと村幹部が担当してきたが、この制度は変わらないか。

郝：変わらない。仇池社は四社五村の総領で、あの村の人が多い。昔水源の管理をめぐるべくけんかした。あの村はけんかに強い。四社五村の制度はけんかによって形成した。

弁納：昔この村は副業があったか。

郝：集団化の時、酢、醤油、春雨、豆腐製造などの副業があったが、現在ではなくなった。現在村で売店を営んでいる人がいる。

内山：出稼ぎをした人が大勢いるか。普通どこへ行くか。

郝：大勢が、炭鉱で働いた。若者の大半が出掛けた。

三谷：臨汾、霍州以外のところも行ったか。

郝：どこにでも行った。遠いところでは広州、江西、内モンゴルに行った。

弁納：出稼ぎには、誰か紹介したか。

郝：普通親戚と友人によって紹介される。政府が新疆の綿収穫の仕事も手配した。

小島：演劇の場所はずっと同じ場所か。普通村の廟のところで行うのか。

郝：この村では廟がなくなった。現在場所が一定ではない。臨時に戲台を作る。各村の中の廟は竜王廟ではない。竜王廟は水源地しか建てない。

内山：竜王廟と供水ステーションを見学できるか。

郝：廟はいいが、供水ステーションには行けない、我々と向こうとの矛盾が大きい。

弁納：この村では養殖農家がいるか。

郝：いる。ウサギを養殖する。書記の家では400～500匹を養殖している。

三、2010年12月山西省P県D村調査

WSZ

訪問日時：12月25日午後

訪問者：祁・河野・内山

訪問場所：WSZ自宅

本人は、山西大学の調査も含めて、知らない、覚えていないを連発。調査隊が以前インタビューをしたWSJ・WSJIEは従兄弟だが、SJIEとの関係は遠い。途中から妻のLYZさんが県城でのプロテスタント活動に参加し終え、帰宅した。彼女にプロテスタントのことも聞いた。

年齢＝76歳。猪年（1935年生まれか？）

両親＝父はWZ。母はHYY。母は侯郭村出身。

家族＝WSZは2人兄弟の兄。弟はWSF、生きて本村在住、73歳。妻はLYZ、67歳、猪年（1944年生まれか？）、本村出身。子供は4人。一番上が女。WYX、47歳、結婚して太原にいる。ハルビン大学卒業。太原では設計院で建築業に従事。2人目は男、WXD、44歳。現在は汾陽の公安局に勤務。3人目も男、WXS、40-41歳（兄の3つ下のはず）。平遥城内で物売りをする。4人目は女、WXX、37歳。祁県で仕事。詳細は不明。

教育歴＝道備村の小学校に数カ月だけ行った。その後農業に従事。

土地改革＝父は10代の頃に死亡しており、以前持っていた土地の量は不明。土地改革時には貧農に区分され土地を分配されたが、それ以前も土地は持っていた。しかしその量は不明。

日本軍のこと＝日本軍が来た時の記憶はない。土地改革もあまり覚えていない。

集団化＝農業集団化時期の記憶はあり。村内には勝利社・建設社などの社があり。しかし自分がどの農業社にいたかは覚えていない。

大躍進＝大躍進については覚えている。その時期自分は第5生産隊に所属。家畜が引く大車を使って物資を運ぶ仕事（趕車）に従事。冬にはそれを使って副業。それは生産隊が命じてやらせていたものであり、個人での副業は許可されない。

困難時期＝1960年代の困難時期、周りには飢え死にしたものもいた。しかしその数は不明。家族に飢え死にしたものはいない。当時、家ではなく社の食堂で食事。

当時の幹部＝TKYとGZL。Tは早死にし、子供も既に死亡。どのような人だったかは分らない。Gは村の北の方に子供がいる。しかし名前は不明。昔は村中の人間を皆知っていたが、今は知らない人もいる。歳をとってあまり外に出なくなったので、若者などは分らない。

現在の家計＝現在夫婦で4畝の土地でトウモロコシを作る。また家の中庭でも少量の野菜を栽培。農業の費用については、化学肥料、

1 畝につき100元余り。種, 1 畝につき50元余り。農薬, 1 畝当り30元。耕すのに使用するトラクター, 1 畝あたり20元。種植え, 1 畝当り15元。1 畝当りの生産量は800斤。現在1斤当りの価格は0.9元。そのため1 畝当りの生産額は約700元。村の人が村内のトウモロコシを集めて外に売る。そのような人は数軒いる。しかし名前は知らない。そのような人は「井子」と呼ばれている。現在はトウモロコシの売却によって生計を立てている。年金などはない。また子供たちからの仕送りもあり。彼らは年に3回ほどやってくる。子供に代わって老人の世話をするような福利が村内にあるかは不明。

宗教 = 村内にある教会はカトリックの教会です。妻はプロテスタントの信者。村にプロテスタントの教会はないため、県城の教会へ行く。彼女は最近信者になった。

(ここで奥さん帰宅。インフォーマントは奥さんに変更する)

プロテスタントの信者 = 今日は県城の教会のクリスマスミサから帰ってきた。村の他の信者たちとともに車で教会へ。両親も10年余り前に入信。70歳の頃。現在は85歳。自分が入信したのは人から勧められたため。初めに村にプロテスタントを持ちこんだ人は既に死亡。HLYの妻の母は信者で、HLYの家は現在村のプロテスタント活動の中心。プロテスタントは村内に20-30人ほど。週1で集会を行う。Lは皆毎回参加する。WSZが入信しなかったのは、文盲で聖書の教えを理解できないため。現在教会を建てる資金は無い。

カトリックの信者 = 村内、カトリックよりプロテスタントの方が多い。両者の間で相互に関連する活動やつながりはない。カトリックは聖母信仰を行う。イエス自身を信仰の対象とする自分たちとは違う。

LYZの経歴 = 親は平遥で商売をしていた。解放後に本村に来て農業を営む。元々親の親が本村の出身だった。父の名はLPM。母はWRH。父はその後第3ダムで働く。弟は現在太原市にある山西省水利庁に勤務。LYZ

は王家荘の中学を1963年に卒業。その後村に帰る。しかし結婚したのは1961年で、まだ在学中の頃。中学校卒の経歴の持ち主だが、幹部などになったことはない。

結婚 = 人の紹介で知り合った。元々WSZのことは知っていたが、恋愛関係にはなかった。父のダムの仕事による収入は月20-30元。7人家族の生活は貧しかった。WSZの家は労働力が多く、生活に余裕。また、趕車は技術労働であり、一般の農作業より労働点数が高く、生活水準は良い。そのため結婚。

2人の人生 = 人生で最も辛かった時期は1960年代。60-62年。食べるものがなく、トウモロコシの粉と草の根を混ぜて食べる。その時、農民は農作業中にトウモロコシの盗み食いをしていた。

WBG (2回目)

訪問日時: 12月26日午前

訪問者: 祁・内山

訪問場所: WBG自宅

第3小隊の隊長を30年間勤めた老幹部。8月に引き続き水利関係の質問のために再訪。相変わらず記憶力はよい。

解放前の村内の井戸について = 20~30戸が共同で井戸を掘り(1戸負担2,3元負担)、同じ井戸を利用する人はすべて隣人なので、農作業も協力した。

合作社の編成した時、同じ井戸を利用する人は同じ合作社に入社したことはあるか = 関係ない。生産隊の編成は地域によって編成した。人民公社時代の井戸建設について = 村の中に生活用水の井戸は増えなかったが、畑の中に、始めは人工で大口井を掘り、深さ30メートルくらいで、その後、機械で100メートルの井戸を掘った。水利局による上からの指導による建設。

その井戸は現在残したか = 深さ30メートルの井戸は3~4個があった、140メートルの機械

井戸は24個があった。

井戸の管理は = すべて個人に売却した。その井戸の灌漑面積によって、高いほうが19,000元、安いほうが3,000元、一般的に10,000元くらい。この井戸は昔、すべて国の金で掘ったものだが、現在その金は村に払う。

井戸の利用に際しては金を払うか = ポンプの電気料金を払う。1ワットあたり井戸の所有者へ0.8元を払い、井戸所有者は0.3元を貰って、あとの0.5元を村の電気管理者（電工）に払う。電工が村へ幾ら払うか、我々は分からない。この価格はすべて村が決めた。

電工とは = 南政郷にある電気管理ステーションによって各村で電工を選定した。

生活用電気料金はいくらか = 1ワット0.5元。しかし、電工より上に幾ら納めるか、分からない。

この村は廟会を催したか = 二三年前からずっと行わなかった。昔は廟会の費用は村と個人から払った。村の二人は村の農地を借り、工場を経営して、一回のみ金を払った。一人は5,000元を払った。

劇団はどこから = 太原市青年劇団で、また、文水の劇団もあった。

村の廟は現在修繕しないか、昔村の事務室として使ったか = 20年前は事務室だったが、現在誰も管理しない。村も管理しない。幹部会議はすべて小学校と書記の家で開催する。

村になにか宗族活動もないか = ない。墓参りが同じ日だが、各自供え物を用意してお供えをあげる。紙銭は自分の父親の墓に多くあげ、他の祖先にすこしあげた。墓参りの世話人はない。

「天下為公」という言葉は聞いたことがあるか、この村で公共事業があるか = その言葉は聞いたことはない。現在村のことは誰も責任を負って管理しない。沙河は昔アルカリ土地を改良する溝だが、現在龍海集団（食品加工工場）が排水をそこに放水したが、誰も制止しない。

この村は今有能の人が皆出稼ぎをしており、だからバラバラになっているか = この村の人

は大体村にいる。出稼ぎをしている人は僅かだ。村の幹部はなにもやらない、みっちり働かない。給料をもらうのに。村人が家を建築する時、農業用地から大量の土を取り、畑を荒らしてしまった、だれも制止しない。現在の政策はやさしいだが、毛沢東時代では、幹部がこのようにたいまんになることは許さない。

郷の幹部は管理しないか = 郷の幹部はさらに管理しない。郷の幹部はぜんぜん村に来なかった。完全に面識がない。毛沢東時代の幹部とぜんぜん違う。私は1978年から20年間幹部を務めた、副村長になった。国の政策により年金をもらうはずだが、コネをつけないので、下りられなかった。今年も申請書を提出したが、結果が分からない。

貴方は老幹部として、毛沢東時代は良いと思うか = そうだね、その時代は良い。現在、国から村に補助金をいくら交付したか、村民が分からない、かなり不透明だ。先日、私はL書記長を訪ねた。私はわが村の用水路がすべて壊れた、修復すべだと言った。書記長の答えはかなり曖昧だ。この村は昔から汾河の水で灌漑し、村の西側は昔砂地だが、人民公社時代改造し、灌漑できた。1畝にあたり生産高は1,000斤で、現在700斤に下がった。灌漑できれば、1,300~1,400斤に達成できる。もし、続いて灌漑しなければ、その耕地は完全にアルカリ化に戻る。

人民公社時代にはアルカリ性土地を改造したね = そうだ。昔この村の半分の耕地はアルカリ性土地だが、大体改造した。書記長の姪は村の婦女主任だが、家で賭博場が開く。副村長も。賭博で、儲けの一部を彼女に出す。貴方の家は豚の血から作る豆腐の製造と販売をしたね = 息子は外の村から豚の血を買い集め、家で血豆腐を製造・販売する。血豆腐は1斤に1元で、霍州の人がここへ買いに来る。

JSL

訪問日時：12月26日午後

訪問者：祁・内山

訪問場所：JSL自宅

文盲の老幹部。多弁にて事実関係の確認が必要。

家族関係 = 父JDS, 母蔣T氏。妻HYL。長男JZQ (47歳, 本村), 次男JZL (47歳, 本村), 長女JXH (45歳, 新庄に嫁ぐ), 三男JZG (40歳, 画家)。

経歴 = 小学校にも通学していない。11歳の時に父が死亡, 以後農業に従事。

幹部履歴 = 1957年村の青年団書記長, 第7生産隊に所属。大躍進時, 青年突撃隊長。60年に共産党副書記に就任。

大躍進時の仕事 = 始めに, 村で, その後民兵を率いて, 県の南部山岳地帯(老虎屯)で鉄鉱石を掘り, 製鉄に従事。

困難時期 = 当時, 食糧不足, 満腹できない。村は1957年10個の生産小隊は一つずつ食堂を設け, 1958年に二つ生産小隊が一つ食堂になった。

食堂のたべものは = 高粱と玉蜀黍を中心, 小米(粟)は僅か, 野菜は地菊という苦菜をたべる。食糧では, 始めに, 一人に一日の0.8斤, その後嘘付け報告なので, 食糧を上納めた, 村に残した量が少ない, 一人に0.7斤になった。

餓死者が出たか = 1960と1961年の2年間村で207人が餓死。当時, 山西省の青年団書記長董雲(?)はこの村の婿(彼の奥さんはこの村の人)なので, この村の実情を省党書記長陶魯加に報告した。地区の財貿部の董部長がこの村に来た。その後, 上から食糧を援助した。当時村民は食糧を窃盗したか = 幹部以外, 誰も盗む。仕事中に玉蜀黍, 大豆を密かに食べる。幹部に見つかりと吊るして殴られる。当時, 董部長が幹部のこの行為を制止した。董部長は農民の窃盗行為は盗むことではない,

これは「私吃私拿」(自ら食べる自ら持ち帰る)ということで, 農民を殴らない。彼は良い幹部だ。

その時の幹部は窃盗をしないか = しない。村に病人食堂がある。70~80人収容した。病人が1日の食糧定額は1.2斤だ。幹部が浮腫みになると, 上が下りると, 「抗浮餅」を配られた。

1969年代に幹部が変わったか = 変わった。当時の書記TKY, 主任(村長)DZSが両開された(党籍が除籍, 職務が免職), その理由は嘘付き報告(浮誇)をしたからだ。また, 副書記のWHが「国民党作風」のため, 党籍が除籍された。彼は「綁, 吊, 打」を行い, 農民の窃盗行為が見つかり, ある農民を殴った。その後, WXHが党副書記から書記に昇進, 私は青年団書記から党副書記に昇任, WZXは副主任から主任に昇進, SXが小隊長から副主任に昇進, WLYも小隊長から副主任に昇進した。

他の変化は = 村の自留地が復活された。また, 実辺地, 荒地も配る。耕地の周辺の土地は実辺地と呼んだ, 労働力に基づいて配り, 荒地と自留地は人口に基づいて配る。当時, 生産隊から配られる食糧は380斤だが, 実辺地, 荒地と自留地からの収穫を加えて, 一人に500斤近いになった。これは後批判されたが, 村民が擁護した。

四清運動の時, 幹部を批判したか = 二人の副主任が免職された。WXHが免職された。WXRが治保主任から書記に昇進。

WXHの罪状は = 階級路線が不明確だ。彼はある富農の子供が高校へ進学する時, 村が作成した証明書の中に富農から中農に改ざんした。彼はあの富農からの賄賂を受けた。

二人の副主任は = SXは汚職で, WLYは一貫道だ。

この村の一貫道の状況は = 私はよく知らない。一貫道の信者は公開の者と非公開の者もいる。実はWLYが良い幹部だ。彼は党に忠誠心を持つ。村民に厳しいので, 恨みを買った。SXは本当に汚職した。彼は副業を担当

していた。彼は汚職を認めた。結果は、党籍を保留して党内に留めて観察された。副主任が免職された。

四清工作隊はどこから = 靈石から来た。当時桃園経験を宣伝され、祁県の所では幹部を厳しく批判し、殴ったこともあった。この村の工作隊は穏やかな人ので 殴ったことはない。王孝仁が治保主任を担当した時、よく村民を殴った、この時、書記になった。

四清運動の時文書（档案）を残したか = その時、会議記録があった。汚職200元以上の案件はすべて要訴追事件として提起された。汚職1,000元以上があればレッテルを貼られた（戴帽子）。副業会計のZWZが1,700元を横領して、「貪汚分子」のレッテルを貼られた。SXは500元を横領した。

当時の摘発・処分を担当する者は = 貧農協会だ。主任はWXN、副主任はWHだった。

四清運動の時、カトリック信者は批判されたか = 批判された。この村の人HZC(?)は汾陽で神父を勤めた。その時太原の天主教教徒が動乱を起こした。霍は汾陽で動乱を宣伝した。村に送還され、「壊分子」のレッテルを貼られた。もう一人のTKG(?)は太原で勤め、動乱に参加して、村に送還され、「現行反革命分子」のレッテルを貼られた。1980年代に名誉を回復した。もう亡くなった。

その時の村の教会は = 四清運動前、教会は第3小隊の倉庫として使われた。教徒は家でミサを行う。四清の時、ミサなどを禁止され、バイブルも没収された。

（この後、妻HYLは次のように述べた。この村は現在カトリック教徒よりプロテスタントの教徒が大勢で、カトリックは規則が厳しい、上からコントロールし、カトリック教徒家の娘はカトリック教徒以外の人と結婚せず、しかし、その息子はカトリック教徒以外の女性を娶ることができる。カトリック教徒がマリアを信じて、プロテスタントはイエスを信じている。）

WRS

訪問日時：12月27日午前

訪問者：祁・内山

訪問場所：WRS自宅

64歳、猪年。

農業技術指導員、所要にて夫婦で出かけるため10時30分までのインタビューとして承諾を得る。

家族関係 = 父、WLR、母、WLY（南政村出身）、妻、HYJ（62歳、丑年、本村から5里の新庄出身）。

長女はWYZ（35歳、新庄に婚家）、次女はWYJ（32歳、西游駕に婚家）、長男はWYD（29歳、同居）。

学歴・職歴 = 1966年に初級中学を卒業後、P県一中に進学、卒業後帰村。1974年県の農牧局の技術員となり、王家庄地域の農業技術を指導。一郷に一人に技術員がいた。2008年に定年。現在10畝の土地でとうもろこしを生産。水不足にて生産量は少ない。

水利灌漑と肥料 = 現在の灌漑の問題は、かつての水利施設が廃止されたこと、自然環境面でも降雨量が少ないこと。沙河の北側までは灌漑している。王さんの畑は村の西と東にあるので水不足。

井戸水は電気代のコストが高い（1畝60～70元の電気代）。まして畑地が井戸から遠いと途中で流水してしまう。集団化時代は灌漑整備が行われていた。現在の国家の政策は正しいが、地方政府が金を出さないことが問題。

化学肥料も水がなければ効果が薄い。どの農家でも1畝に100元あたりの肥料を投入している。

かつてはとうもろこしの茎を粉碎して土に混入していたが（秸秆還田）、現在では業者に委託して機械で粉碎する。1畝当たり50元かかる。機械化されたので農家では効率の良い人力に頼らない。各農家は中型トラクター（1台9～10万元）を持ち共同利用はしない。

我が家にはない。

農業技術面での問題 = 農業技術は高くなった。とうもろこし生産では1畝当たり300~500円の収入しかならない。自然環境が最大の問題。昔はこの村でも1,000畝以上の畑で小麦を生産していた。現在では生産量が足りず、小麦粉1袋50斤を73円で購入している。出稼ぎが多い。

この村では工場の排水で汚染された水を利用している。汚染された水量は少ないので大きな影響は出ていない。訴訟することもしない。今年は降雪も少ないので、畑のワラが腐らず農作業にとって良くない。

現在農家では高濃度の除草剤を使用している。国の厳しい規制はあるが、購入した農薬の使用法は農民に任されているので、問題が残る。一部の農民が儲けのために今日に農薬を吹きかけ、翌日に出荷した。

WS

訪問日時：12月27日午後

訪問者：祁・内山

訪問場所：WCFさんの供銷社

午前中の残り時間、WCFさんの供銷社に行くと雑談をしていた。王家庄人民公社の幹部だったというので、午後のインタビューを予約。73歳、寅年。

家族関係 = 父はWBY, 5畝の中農。母はDFX。妻はDYM(西游駕出身)。長女はWLP(1963年あるいは64年生まれ、平遥城内)、次女はWXL(1965年あるいは66年生まれ)、長男はWZL(1967年あるいは68年生まれ、介休で鉄道運転手)、次男はWZB(1967年生まれ、平遥城内)、三男はWZH(1970年生まれ、本村)

学歴・職歴 = 階級区分は中農で、父が15畝の土地をもった。1955年に中学卒業後、山西省の農業庁に就職し、測量を担当した。1957年12月に「上山下郷」運動時に、道備村に帰村

し、村の会計補助や水利工事を担当。1958年春に王家庄郷政府に就職。夏に農業庁に戻り、太谷の果樹園で働く。59年秋に農業庁に戻り、農業師範専科學校の図書館図書係。61年9月に孝義県人民公社に勤務し、翌年4月に孝義県人民銀行に移る。76年5月から平遥県王家庄人民公社に勤務。95年1月に地方税務局に移り、98年に定年。

集団化 = 太谷県の果樹園の時代は、外界との接触がなく、集団化の様子は分からない。孝義県で困難期を迎えたが、赴任時には飢饉は終わっていたので、餓死者の数は知らない。当時の幹部や市民は、月に25斤、農民は年に360斤を支給された。

太原の農業庁では、幹部は月に18斤しかもらえず、朝とうもろこしの粥、昼にマントウ1個、夕食にお粥が支給され、腹がへっていた。奥さんは農業庁のトラクターの運転手だったので、外で食べられたので、奥さんの分を回して食べた。

郷政府への変化 = 人民公社から郷政府へ変化した時も、仕事にやり方に変わりはなかった。ただ財務関係では、以前は統計が可能であったが、請負制以後は正しい統計ができない。春の生産計画に基づいて秋の収穫高を計算していた。

人民公社時代は毎年各村の書記を集めて、水利建設などを話し合っていた。郷政府に代わっても、当初は水利灌漑を重視していた。この7、8年は水利に対する関心は薄くなった。汾河の水量は一時期少なくなったが、現在は多い。最大の問題点は、幹部の作風だ。現在に郷幹部は農村に顔を出さない。

共産党の上層部はいいが、地方幹部が政策を実行しない。排水を出す企業についても、上告(信訪)はしない。自分の息子の失業の件で上告したが、インターネットで訴えれば大丈夫だとウソのことを言われた。農民が上告しないのは、被害が深刻でないこと、訴訟には金がかかることが原因。村の幹部は共産党のお金をもらって、事を処理しない。

四清運動 = 銀行の幹部が四清運動の工作隊と

して村に派遣されていた。その時割り当てられた農家で食事をした（派飯）。三食は農家で食べる。農家に糧票とお金を渡す。朝食は糧票3両とお金0.1元，お昼は糧票5両とお

金0.15元，夕食は糧票2両とお金0.1元だった。工作隊員は一日の日当0.4元，糧票の補助もあった。